

2024年入学式告辞

2024年4月1日

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。市邨学園名古屋経済大学は本日、大学院に43名、学部には573名、合わせて616名の入学生を迎えることができました。名古屋経済大学の教職員を代表して、心から皆さんの入学を歓迎いたします。キャンパス内の桜はほころび始め、春爛漫の良き日に、原欣伸（はらよしのお）犬山市長、柴田浩行（しばたひろゆき）犬山市議会議員、伊藤正久（いとうまさひさ）犬山商工会議所副会頭はじめ多くの来賓の方々のご臨席を賜り、入学式を挙げることをうれしく思います。また、コロナの感染拡大が落ち着き、保護者の方々には制限を設けることなくご参列いただけたことも大変うれしいことです。保護者の方々には、今日まで学生の生活を様々な面で支えていただいたことに感謝申し上げますとともに、お子様のご入学を心からお祝い申し上げます。

ところで皆さんは、希望に胸を膨らませて、この場に臨んでいることと思います。どうか、この希望を忘れることなく、学生生活を送ってください。大学院生の皆さんは、研究者になるとか税理士になるとか、すでに目的がはっきりしていると思いますので、その目的に向かって全力で研究生生活を送っていただきたいと思います。これからは主に学部入学生にお話をします。

市邨学園の創立者である市邨芳樹先生の教えに「一に人物、二に伎倆」とい

う言葉があります。これは本学園の建学の精神であります。ITが進化し、とりわけ生成AIの発展は人のすることのすべてを肩代わりしかねない状況にあります。このような時代には、「人とは何か」とか「人にしかできないことは何か」が常に問われることとなります。しかし、まずは何をするにしても、人としての良識を持ち、社会で尊重される人物であることが最も重要な前提となります。皆さんは18歳成人の法制化に伴い、大人としての自覚を問われてきたと思いますが、我々は、新入生の皆さんを、あえて大人としては扱わず、4年間をかけて立派な大人に育てていく所存です。一年生から少人数クラス制をとり、日常生活の送り方も含めて教育をしていくつもりです。

また、現代では社会が必要とする人物像が大きく変わり、大学で身につけることが期待されている能力が変わってきました。高校でも指導要領が大きく変わり、入学試験もいわゆるセンター試験が大学入学共通テストに変更になりました。これは社会が求める人材が大きく変わり、それに対応するために教育内容の変更が必要になっていることを意味しています。その内容は一言でいうと「知識偏重から社会人基礎力重視へ」ということで、「考える力やコミュニケーション能力」の養成が重視されているということです。そうはいっても高校ではまだ、大学入学試験対策のための学習が大きな比重を占めていたと思います。大学の学びはそれとは大きく異なることとなります。本学では社会人基礎力養成のためのプログラ

ムを多数用意しています。

その概要を簡単に紹介します。本学は、グローバル人材の育成を教育目標に掲げています。グローバルとはグローバルとローカルを合わせた和製英語です。ローカルにすなわち地域に密着し、地に足をつけて具体的に物事を考え、グローバルに、とりわけアジアで活躍する人材を養成することを教育目標にしているということです。

本学は、犬山にある唯一の大学として地元にも愛され、期待されていると自負しています。このことは、4月1日という年度初めのお忙しい中、犬山市長、犬山市議会議員、犬山商工会議所副会頭が本学の入学式にご臨席下さっていることから分かります。犬山は、若い人や外国人に人気のある観光地として有名ですが、国宝犬山城を擁し、博物館明治村、野外民族博物館リトルワールド、博物館白帝文庫など、研究者を擁する研究組織が多数集積した学術都市です。本学では、これらの研究組織の協力を得て、犬山市とその周辺地域を学びの場所とした「体験型学習」の授業を1年生全員に提供しています。先ほど言ったとおり、高校までの学びは、大学受験のための勉強で正解があることを前提に、その正解を覚えることが中心であったかと思いますが、社会に出て解決をしなければならない問題の多くは、唯一の正解があるわけではありません。目の前にある地元の具体的問題の解決策を考えることは、今後皆さんが、社会に出て活躍するうえで

重要だと思われます。とくに、予測不可能な現代にあつては、既存の常識にとらわれず、変化する事態に柔軟に対応する能力が問われるからです。

また、我々の日常生活がグローバルな連鎖の中にあることは明らかであります。皆さんが将来、社会に出て活躍するためには、グローバルにものを考え、活動することが求められます。したがって、名古屋経済大学は、皆さんがグローバルに活躍できる人材に育てていただくために、10年前からキャンパスのグローバル化を目指して、留学生を積極的に受け入れてきました。今年も、本学は144名の留学生を受け入れることができました。全学では250余名の留学生が学んでいます。キャンパスにいながら国際交流ができるという恵まれた環境を大いに生かしてください。また、留学のメニューも多数用意していますので利用していただきたいと思ひます。

何かカリキュラムの説明のようになりましたが、もう少し一般化してお話しますと、生成AIが急速に発展する現代においては、人間にしかできないことは何かを考え、変化する事態に柔軟に対応できる「考え続ける能力」をつけることが必要だということです。このためには大学に入学することは学びのゴールではなく新たな学びの出発であり、皆さんは4年後にどこの大学を卒業したかではなく、大学で何を学んだかが問われます。そこで問われる内容は、正解があるような知識ではなく、考える能力であり、自分の考えを伝える能力です。

しかし、誤解をしないようにしていただきたい。建学の精神である、「一に人物、二に伎倆」とは伎倆が重要ではないと言っているわけではないのです。グローバルに活躍できる人材となるためにも基礎学力は必要です。本学では、コンピューターリテラシーについてはマイクロソフトのMOSの資格取得を必須にしていますし、一年生全員にネイティブの教員による英会話を習ってもらいますし、「基礎力養成講座」を能力別に受講していただきます。数学ができないから文系に来たという人も少なくないかもしれませんが、簡単な数学ができなければ社会生活も不便ですし、ITの基礎を理解することは不可能です。したがって、全員が本学学生用に開発された教科書に基づいて数学基礎を学んでいただきます。われわれがこのように基礎学力にこだわるのは、皆さんを受け入れた以上、立派な社会人として社会に送り出す覚悟の表れだと思って、これらの授業についてきてください。

最後に、人生の先輩として申し上げたいことがあります。大学生活4年は、人生100年のうちのわずかの期間ですが、皆さんが将来、一年ごとを具体的に思い出すことができる貴重な4年間になります。この期間にしかできないことを是非してください。たとえば、ボランティアやサークル活動を通じて、利害関係のない、一生付き合うことのできる親友を作ってください、仕事でも趣味でも良いのですが、自分が一生続けたい好きなことを見つけてください、そして、自分の

確固たる価値基準を築いてください。生成A Iがいかに発達しようとも、どう行動すべきかを判断するのは人間でなければならないので、価値基準をもつことは極めて重要であると思います。

皆さんのこれからの学生生活が充実した実り多いものとなることを祈念するとともに、本学がそのための機会を提供することをお約束し、私の告辞とします。

あらためて、入学おめでとうございました、